

## 社殿の彫刻に目が釘付け！ 葛塚の古峯神社



柱や階段など全面に細かい彫刻があり、目をうばわれます。

祭神 やまとたけるのみこと 日本武尊

祭礼 6月15～16日

地元では、「古峯ヶ原様」と呼ばれ親しまれています。

社殿の建つ場所はもともと、開市神社の祭神となった遠藤七郎左衛門宗寿をまつた祠があったところ。その地へ1878（明治11）年に発見された木像を祭ったのが始まりで、火難除けの神として信仰されています。

移築されたと伝わる社殿は、社殿の下の木材に墨で「天保八酉年（1837）八月吉日」と書かれていたことから、その頃に造られた社殿であると考えられます。一部を除き総ケヤキ造りの社殿は、至るところに装飾的な彫刻がなされていて、美術工芸の観点からも注目

される貴重なものです。2008（平成20）年に、国の登録有形文化財に認定されました。

現在は、立派な彫刻を保護するため、社殿には覆屋が建てられています。普段は、覆屋越しに社殿を見ることしかできませんが、祭礼のときには覆屋の戸が開かれます。また、祭礼では稚児舞も奉納されています。

社殿のとなりには、古峯神社勧請60年と100年をそれぞれ記念して建てられた石碑もあります。



生き生きとした竜の彫刻



絵画のような彫刻

### なぜ参道に橋があるの？

古峯神社と石動神社の参道には石橋がかかっています。古峯神社参道の橋は「鶴橋」、石動神社の橋は「亀橋」といい、かつてあった用水路の名残です。この用水路は1733（享保18）年の絵図にも描かれています（50ページ参照）。